

栃木県益子町「土祭（ヒジサイ）2012」における建築プロジェクト

研究組織：宇都宮大学大学院 工学研究科地球環境デザイン学専攻 准教授 安森 亮雄

益子町産業観光課 板野 修次

日本建築家協会 関東甲信越支部栃木地域会 武井 貴志

1. 事業の目的・意義

益子焼で知られる栃木県益子町では、窯業と農業を主とする歴史風土の原点である「土」をテーマに、2009年に「土祭（ヒジサイ）」が行われた。本事業では、2回目を迎える同祭において、大学と地域の共同ワークショップ方式による「自然環境との共存」を発信する建築プロジェクトを実施した。地元自治体（益子町）、専門家（日本建築家協会）、栃木県内の大学・高専との共同により、建築プロジェクトを通じた地域連携活動を推進することが目的である。

2. 実施方法および事業の進捗状況

栃木県内で建築系学科を擁する宇都宮大学、足利工業大学、小山工業高等専門学校の3校と、日本建築家協会・関東甲信越支部栃木地域会（主催）は、これまで、建築学生と建築家が共に学ぶ「スクールin栃木」を開催してきた。第19回目となる今年度は「土祭（ヒジサイ）2012」における「たてももの未来」の建築プロジェクトに参加し、日干しレンガを用いたベンチの施工、講演会、ディスカッションを行った。実施の詳細は以下の通りである。

■日 程

2012年9月1日(土)

日中：日干しレンガのベンチの制作
(土祭広場)

夜：講演会とディスカッション
(NAGOMI)

建築家 日置拓人氏

建築家・映像作家 町田泰彦氏

木工作家 高山英樹氏

2012年9月2日(日)

非電化冷蔵庫の制作（綱神社）

2012年9月16日(土)～30日

展示（土祭2012会場）

■参加者（計29名）

宇都宮大学 学生6名、教員1名

足利工業大学 学生5名、教員1名

小山工業高等専門学校 学生1名

日本建築家協会会員 7名

講師・技術指導員 5名

益子町職員・土祭事務局 2名

一般（設計事務所所員） 1名

3. 事業成果

3-1. 土祭広場における日干しレンガベンチ制作

メイン広場である土祭広場において、前年度の「前土祭」の際に、建築家・日置拓人氏が設計した休憩小屋で、日干しレンガのベンチを制作した。別途ワークショップで制作された日干しレンガには、東日本大震災で破損した益子焼の破片が埋め込まれている。資材運搬の後、左官職人・白石博

一氏の指導のもと、埋め込まれた陶片の研磨、目地割り付け、側面張り、座面張りなどの作業を順次行い、半円形のベンチを制作した。大学・高専で建築を学ぶ学生にとって、経験豊富な職人や建築家と実際の施工に関わる経験は貴重であり、また多くの学生が参加するワークショップにより、土祭の会場設営に協力することができた。



図1 作業前のミーティング



図4 手作業のリレーによる日干しレンガの運搬



図2 別途ワークショップで制作された日干しレンガ



図5 日干しレンガの張り付け作業



図3 日干しレンガには、東日本大震災で破損した益子焼の陶片が埋め込まれている



図6 完成（背景が日干しレンガのベンチ）

3-2. 飲食コーナーにおける非電化冷蔵庫の制作

綱神社（国指定文化財）の「鶴亀の池」のほとりで開催される茶屋で用いる非電化冷蔵庫を制作した。非電化冷蔵庫とは、那須町で非電化工房を主宰する発明家・藤村靖之氏が考案した、夜間の放射冷却現象を利用した冷蔵庫の仕組みである。建築家・海老原綾氏の指導のもと、合板（コンパネ）で作った本体の設置、外部に断熱用の土嚢の積み上げ、内部に放射効果を発揮する墨汁の入ったペットボトルの設置、気泡緩衝材（エアキャップ）を利用した断熱と透過効果のある蓋の制作を行った。「自然環境との共存」をテーマとする土祭にふさわしい制作物となった。



図7 非電化冷蔵庫の設置作業

3-3. 講演とディスカッション

3名の講師による講演と参加者を交えたディスカッションを行った。建築家・日置拓人氏は、左官職人・久住章氏に師事した経験や、土祭の建築プロジェクトを通したものづくりについて講演した。建築家/映像作家・町田泰彦氏は、小栗康平監督「埋もれ木」の美術助手をした経験や、自邸の設計施工、現在制作中のドキュメンタリー映像について講演した。木工作家・高山英樹氏は、インテリアデザイン、プレハブを用いた自邸の施工、古材を用いた家具の制作について講演した。昭和初期に陶芸家・濱田庄司が移住し、外部の文化を受容発展させてきた益子の背景を理解する講演とディスカッションとなった。



図9 講演とディスカッションの様子

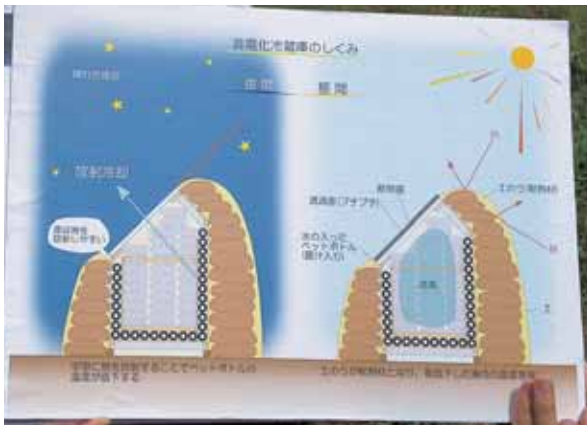


図8 非電化冷蔵庫の仕組み



図10 廃校を再生した「NAGOMI」（ディスカッション会場）

4. その他の地域連携による建築プロジェクトの紹介
代表教員（安森亮雄）は、本事業の他にも2012年度に栃木県内で地域連携による建築プロジェクトを実施しており、これらを紹介する。

4-1. 「釜川20周年まつり」における竹パビリオン （宇都宮まちづくり推進機構との協働）

宇都宮市で行われた「釜川20周年まつり」の会場デザイン。源流の竹林と水面をモチーフにした竹のパビリオンによる「1日限りの竹のパブリックスペース」を商店街の広場に制作した。展示壁やベンチを一体化した円形の竹パビリオンを、釜川の「現在」「過去」「未来」というテーマに沿って広場全体に配置し、学生とボランティアにより1日で施工可能なデザインとした。商店街からの人の流れを広場に引き込み、都市の自然が感じられる居場所が出現した。



図11 竹パビリオンによるオリオン・スクエアの会場構成



図12 展示壁やベンチを一体化した円形の竹パビリオン

4-2. 震災がれき大谷石を用いた休憩所・喫煙所 （栃木県芳賀町・市貝町の協力、 宇都宮大学陽東キャンパス）

東日本大震災では栃木県内で約18万トンのがれきが発生し、そのうちの約半分が石蔵や石堀の崩壊による大谷石がれきであった。これらの一部は一般に無償譲渡されたが、多くは処理業者に引き取られ粉碎処理されている。こうした調査をもとに、大谷石がれき約150本を引き取り、宇都宮大学陽東キャンパス構内に休憩所兼喫煙所を設計施工した。デザインは、街中にある大谷石蔵の景観を引き継ぎつつ、人の居場所となる大きなベンチとして機能する「小さな蔵・大きな家具」をテーマとした。大谷石によるストリート・ファニチャーが、今後の街中の広場や待合所などの景観形成のプロトタイプとなることを意図した。



図13 東日本大震災で発生した大谷石がれき



図14 宇都宮大学陽東キャンパス喫煙所